

を期待する。日本産の他の2種は花序及び果序の形によつても区別がつくが、本種のこれらに関するデータを詳記したのはそういう将来に対する含みをもつたものである。従つてこの部分の絶対値は実はもつと多くの標本から集めた後でないと直接には種の特長には取れないものである。

本属はマレーア南部及び琉球、台湾、日本内地に約18種を産する。フィリッピンからの記録は未だないが、将来は当然発見されるであろう。分布圏の東はスマトラ (Ins. Mantewari) 及びタイ国 (マレー半島の部分)、西は濠領委任統治西ニューギニアの Waria 及び Torricelli 地方に及んでいる。本種の花は属中でも最も小型のものの次に位する。標本にされた植物は注意深く移植されたとはいえ、その影響で花の大きさが小さくなつていのおそれがないでもない。それは将来確めたい点である。本種を含めた日本産の3種の唇弁は属中で著しく分化した3つの方向を示していて、互に類縁の遠いものである。南方にはこれらの傾向のもの他に単に筵形を示すものもある。また各種の唇弁の外形に関らず、基部から中央にかけて縦に2本の隆起物のあるものもある。ウスキムヨウランの花期は5月、クロムヨウランは6月、ムヨウランは7-8月で互にずれている。第3, 4図にはこれらの他にオキナワムヨウラン *L. brachycarpa* Ohwi の図も参考のために加えた。

なおムヨウランの立派な生態図が伊藤圭介氏の日本産物誌美濃部中三十九丁に出ている。本文は次のようである。「ムヨウラン (異名及び文献略) 武儀郡上麻生村山中櫛木林下ノ石間ニ生ズ、又尾州東谷山ニモ間アリ、一根二三莖ヲ抽テ、高サ七八寸、或ハ尺許ニ及ブ、莖細ク葉無クシテ、因リテ無葉蘭ノ名アリ、根上ニ微ク鱗甲状アリ、芒種ノ頃、莖頭六七花ヲ着ク、淡褐或ハ白地ノ蘭花様ニシテ、幽致最モ愛スベシ、微香アリ、根ハ深ク地ニ入り形「アツモリ、サウ」ノ根ニ似テ、大ニシテ色稍黒シ、」ここに花の色に「淡褐」とあるのは注意を要する。終りに本研究に対して材料、写生図を提供された服部植物研究所の清水大典氏及び助言と写生図を与えられた国立科学博物館の大井次郎博士に感謝する。

# Errata 正 誤 Vol. 30 No. 4

page	line	for	read	page	line	for	read
113	23	本年	昨年	115	3	Un	Une
114	13	Plus	plus	116	21	mikawa	Mikawa
	20	Veginae	Vaginae	125	27-28	同, 白岩山	西白杵郡, 鞍岡村, 白岩山
	21	circumcantes	circumdantes	127	Explan-		
2 from	bottom			nation of	eucastrum	erucastrum	
		nationale	national	figure			
1 from	bottom						
		Universite	Université				